

進化するキャンパス

一人類の未来を拓き、常に新たな社会的価値を創出する総合キャンパスの構築―

1. 新たなゾーニング構想に基づくキャンパス整備

Chuo Vision 2025 におけるキャンパス整備の将来像とその実現に向けた方策を着実に進めるため、各キャンパスの課題と対応策について検討作業を行い、キャンパスマスタープランを策定しています。キャンパスマスタープランの基本方針「人類の未来を拓き、常に新たな社会的価値を創出する総合キャンパスの構築」では以下の4つを掲げています。

- ① 文化・景観・環境・アメニティを重視
- ② 学生・生徒が躍動する、魅力あふれる総合キャンパスを創出
- ③ キャンパスそのもののグローバル化を追求
- ④ 多摩と都心の特色ある二大拠点の形成の実現

2. グローバルキャンパスを目指した多摩キャンパスの施設整備

その中で多摩キャンパスの将来像は「豊かな自然環境のナチュラルなイメージとダイバーシティに富むグローバルキャンパス」としています。そして特にモノレール付近は、学修支援に加え情報発信・グローバルゾーンと位置づけられました。新たなゾーニング構想に基づく整備を骨格として、周辺環境との調和、パブリックスペースなども考慮して整備が進んでいます。

生活の中からコミュニティ共創―中央大学のグローバル戦略

多摩キャンパスにおける具体的な整備としては、情報発信・グローバルゾーンと位置づけたモノレール駅周辺を重点化し、先ずは2017年10月よりグリーンテラス3階において、情報発信の場にカフェ機能（スターバックスコーヒー）を設け、来訪者と学内利用者のコミュニケーション機能を持たせる空間を創出しました。さらに2020年、2021年度に新たな施設を開設すべく準備が進んでいます。

2020年4月には、グローバルな教育研究が可能となる施設設備を整えた「グローバル館（仮称）」と、オンキャンパスで「生活」と「教育」が融合する「国際教育寮（仮称）」が開設予定です。今後さらに多くの外国人留学生や研究者を受け入れ、日本人学生に留学やグローバルな視野に基づく諸活動への関心と意欲を醸成していきます。



グローバル館・国際教育寮（仮称）外観イメージ

2-1. ≪グローバル館（仮称）≫

施設規模：地上7階建、およそ2,800㎡（延床面積）

館内施設：1F：倉庫、サービスヤード

2,3・5,6F 多目的教室 合計18室

4F：グローバルラウンジ、大学史展示コーナー、祈祷室（モノレール駅コンコースデッキに接続）

7F：多目的ホール（150人規模）…国際会議や各種行事に対応可能（同時通訳室など）

グローバルな教育研究活動に資する全学部共通スペースとする予定です。教室については、国際センター主催行事をはじめ、学部共通棟（仮称）が整備されるまでの間は、国際経営学部の授業教室として優先利用される予定です。これにより、ヒルトップ'78の2階にあるGスクエアとともに、異文化理解、異文化交流を促す活気あふれる空間が増加します。

2-2. ≪国際教育寮（仮称）≫

施設規模：地上9階建、およそ8,800㎡（延床面積）

館内施設：1F：エントランス、管理人室、メール室、ランドリー室、外国人研究者用ゲストハウス2室、学生宿舎（予備室）

2～9F：学生宿舎

5F：コミュニティラウンジ、多目的スペース、キッチン、学生宿舎
学生宿舎ユニット内の構成は、個室（6名分）、コミュニティスペース（ミニキッチン付）、シャワーブース1、トイレ2

国際教育寮については、本学初の民間資金を活用した施設整備を行います。プライバシーを保ちながら、生活の中で自然と交流できる共用スペースを用意します。規模は50ユニット300名。研究者用住居として、ファミリータイプの居室も2室用意し、海外からの研究者招致に積極的に活用します。外国人留学生や研究者が食と住の不安を感じることなく日本に滞在できる環境を整備するとともに、日本人学生との交流が日常的に行われるスペースを確保・充実していきます。

これまでに本学では2011年に東京都日野市多摩平にある団地をリノベーションした、日本人と留学生の混住型国際寮を開設し、RA（レジデント・アシスタント）を設置し、同敷地内の他の寮の方々や、地域の方々との交流を図ってきました。翌年の2012年には東京都多摩市に、社員寮をリノベーションした国際交流寮を開設しました。これらの経験を踏まえ、新たな施設の整備により、オンキャンパスで日本人学生と外国人留学生とが教育と日常生活を共にすることを通じて、互いの文化や習慣などを理解し、国際通用性を身につける教育施設を整備します。



グローバルラウンジイメージ



ホワイエラウンジ・多目的ホールイメージ



コミュニティキッチンイメージ



国際教育寮・個室イメージ

3. 学部共通棟（仮称）

学部横断的な教育研究施設となる「学部共通棟（仮称）」については、2021年4月の開設を目指します。現在、キャリアセンターやクレセントアカデミーがあるグリーンテラスの西側にある、エネルギーセンター部分に建設する予定です。

施設規模：地上6階建、およそ12,000㎡（延床面積）



学部共通棟（仮称）モノレール駅からの外観イメージ



学部共通棟（仮称）内装（中央広場）イメージ



学部共通棟（仮称）3号館側からのイメージ

4. 法学部の都心移転に向けたキャンパス整備

法学部が2023年4月から翌年4月にかけて、文京区大塚一丁目（最寄り駅：地下鉄茗荷谷駅）の新校地と後楽園キャンパスへ移転することとなりました。今後、関係機関とさらなる調整を行い、2023年度からの移転に向けて準備を進めてまいります。

大学を取り巻く社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、次世代のニーズに応えられるキャンパスとします。今後も、学生等には選ばれる大学として、本学のブランドイメージを発信できるキャンパスに再編していく姿を社会へアピールしてまいります。



文京区の新キャンパス 外観イメージ